

Calendar

2006年7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

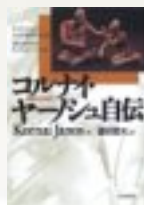
[前月](#)[翌月](#)

Entry Archive

[2006年07月](#)
[2006年06月](#)
[2006年05月](#)
[2006年04月](#)
[2006年03月](#)
[2006年02月](#)
[2006年01月](#)
[2005年12月](#)
[2005年11月](#)
[2005年10月](#)
[2005年09月](#)
[2005年08月](#)
[2005年07月](#)
[2005年06月](#)
[2005年05月](#)
[2005年04月](#)
[2005年03月](#)
[2005年02月](#)

[コルナイ・ヤーノシュ自伝](#) [Books] / 2006-07-14

[コルナイ・ヤーノシュ自伝](#)
 思索する力を得て



日本評論社

[このアイテムの詳細を見る](#)

ハンガリーの経済学者コルナイの自伝。ハンガリー語では、日本語と同じように姓・名の順に書くので、コルナイ・ヤーノシュが正しい表記だ。バルトークも本来はバルトーク・ベーラ、フォン・ノイマンもノイマン・ヤーノシュである。

経済学者の伝記がおもしろい本になることはまずないが、本書は例外である。1928年生まれの著者の人生は、20世紀の社会主義の運命とそのまま重なる。著者は共産主義者として青春を過ごし、戦後はハンガリーの社会主義政権のもとで、ナジ首相のスピーチライターもつとめた。しかしハンガリーの民主化運動は、1956年にソ連の軍事介入によって弾

2005年01月
2004年12月
2004年11月
2004年10月
2004年09月
2004年08月

Recent Entry

[コルナイ・ヤーノシュ自伝](#)

[Becker-Posner Blog](#)

[NGNの開放規制](#)

[サイバー犯罪](#)

[ブロードバンド2.0](#)

[The Long Tail](#)

[Who Controls the Internet?](#)

[第3回ICPFシンポジウム](#)

[「ネットがテレビを飲み込む日」](#)

[グーグル：迷い込んだ未来](#)

[インサイダー取引はなぜ犯罪なのか（その2）](#)

Recent Comment

[平宮康広/NGNの開放規制](#)

[池田信夫/NGNの開放規制](#)

[官僚/NGNの開放規制](#)

[池田信夫/ブロードバンド2.0](#)

[pampam/新聞の「特殊指定」はなぜ必要なのか](#)

[仙台の水戸黄門/国家の品格](#)

[ソラ/国家の品格](#)

[はくさい/ブロードバンド2.0](#)

[平宮康広/ブロードバンド2.0](#)

[池田信夫/ブロードバンド2.0](#)

Recent Trackback

圧された。著者はマルクス主義と決別し、政治の世界を離れて研究者になる。

著者は、線形計画法を使って計画経済を効率化する研究を行う。特に1965年に数学者リプタークとの連名で発表した"Two-Level Planning"(Econometrica)は、社会主義の計画プロセスを一般均衡理論と本質的に同一のモデルで記述した古典として有名だ。これは、さほど驚くべきことではない。ワルラスの一般均衡理論は、もともと社会主義経済のモデルであり、模索過程を模擬する「分権的社会主義」は、1930年代にオスカー・ランゲが提唱していた。ただ実際に社会主義経済を運営するアルゴリズムを提案したのは、コルナイ＝リプタークが初めてである。

しかし、コルナイ＝リプターク・モデルを計算機に実装して経済運営を行う実験は失敗した。その最大の原因は、計算を行うための情報が欠如していたことだ。計算の過程で、各部門が中央当局に正確な情報を上げるインセンティブはないので、情報は歪められ、あるいはまったく上がってこない。こうした実験を通じて、著者は一般均衡理論が情報コストを無視した非現実的なモデルであることを（図らずも）実証し、新古典派経済学を批判するAnti-

[「ハッカー」は「侵入者」ではない](#)(suadd blog)
[re: snifferは悪用するために作ったソフトじゃありませんよ](#)(中の技術日誌ブログ)
[国家の罨 外務省のラスプーチンと呼ばれて](#)(個人的読書)
[当たり前かもしれないけれど...。](#)(バナナバウム ブログ)
[Broadcast 2.0](#)(404 Blog Not Found)
[ライブドア事件から学ぶ『21世紀のSafety Net』のあり方](#)(貞子ちゃんの連れ連れ日記)
[Addicted to YouTube](#)(sima2*blog)
[IPv6素朴な疑問集その10 「IPv4アドレスは本当はなくなるのでは??」](#)(v6くるくる日記)
[インサイダー取引はなぜ犯罪か](#)(語句ログ)
[TBSと楽天の業務提携交渉の行方](#)(【信栄不動産、ここだけ一言】)

Category

[IT](#)(155)
[Economics](#)(52)
[Media](#)(82)
[Law/Politics](#)(54)
[Society](#)(21)
[Culture](#)(22)
[Books](#)(69)

Book Mark

Equilibrium(1968)を書く。

その後の著者の関心は、社会主義経済の非効率性の原因がどこにあるかに移り、その本質を「ソフトな予算制約」に求める。これは社会主義経済ばかりでなく、大企業や銀行融資などにも広くみられる現象であり、日本の不良債権問題にも応用された。

そしてベルリンの壁が崩壊すると、著者の予想以上のスピードで社会主義は崩壊した。その後の移行過程について、著者はミルトン・フリードマンやジェフリー・サックスの主張する「ショック療法」を批判し、漸進的な市場の導入を提言した。しかし現実には「ビッグバン」的な改革が行われ、その惨憺たる結果は著者の提言が正しいことを証明した。

このように本書は「経済学の間で見た20世紀」ともいべき物語になっている。社会主義は文字どおり巨大な「実験」だったが、それが決定的に失敗し、その原因が解明されたのは、20世紀末になってからだった。われわれは、その教訓にまだ十分に学んでいるとはいえない。「市場原理主義」を批判し、エリートによる計画が望ましいかのように論じる人々には、ぜひ本書を読んでほしいものだ。

コメント (0) | Trackback (0)